

家庭の社会経済的背景(SES)が困難な 児童生徒への支援について

—全国学力・学習状況調査と保護者調査の結果を用いて—

令和元年12月4日

青山学院大学コミュニティ人間科学部 学部特任教授 耳塚 寛明

(1) 研究概要 (全国学力・学習状況調査の補完調査としての保護者調査の意義)

- 本研究は、平成25年度及び平成29年度に全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果等を活用し、家庭状況と学力の関係、不利な環境にも関わらず成果を上げている学校や児童生徒の取組を分析したものである。
- 保護者に対する調査の結果を用い、家庭状況と学力の関係をナショナル・サンプルによって分析した研究は、文部科学省として初(25年度)、2回目(29年度)

* 文部科学省の委託により国立大学法人お茶の水女子大学(代表:耳塚寛明25~26年度、浜野隆29~30年度)が分析

平成25年度

文部科学省委託研究「全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」

平成26年度

文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」(効果的な指導方法に資する調査研究)

平成29年度・平成30年度

文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

<保護者に対する追加調査の概要>

調査時期: 平成25年5月下旬~6月下旬、平成29年5月

調査内容: 子供への接し方、子供の教育に対する考え方、教育費等

調査対象: 抽出した公立学校において、本体調査を実施した児童生徒の保護者

平成25年	保護者		(参考)学校	
	対象数	有効回答数(率)*	対象数	有効回答数(率)**
小学校	16,908	14,383(85.1%)	429	391(91.1%)
中学校	30,054	25,598(85.2%)	410	387(94.4%)

平成29年	保護者*		(参考)学校**	
	対象数	有効回収数(率)	対象数	有効回収数(率)
小学校	60,167	55,167(91.7%)	1,186	1,153(97.2%)
中学校	77,491	67,309(86.9%)	799	692(86.6%)

* 児童生徒の結果と結合できる保護者の回答数 ** *1人以上の保護者が有効回答だった学校数

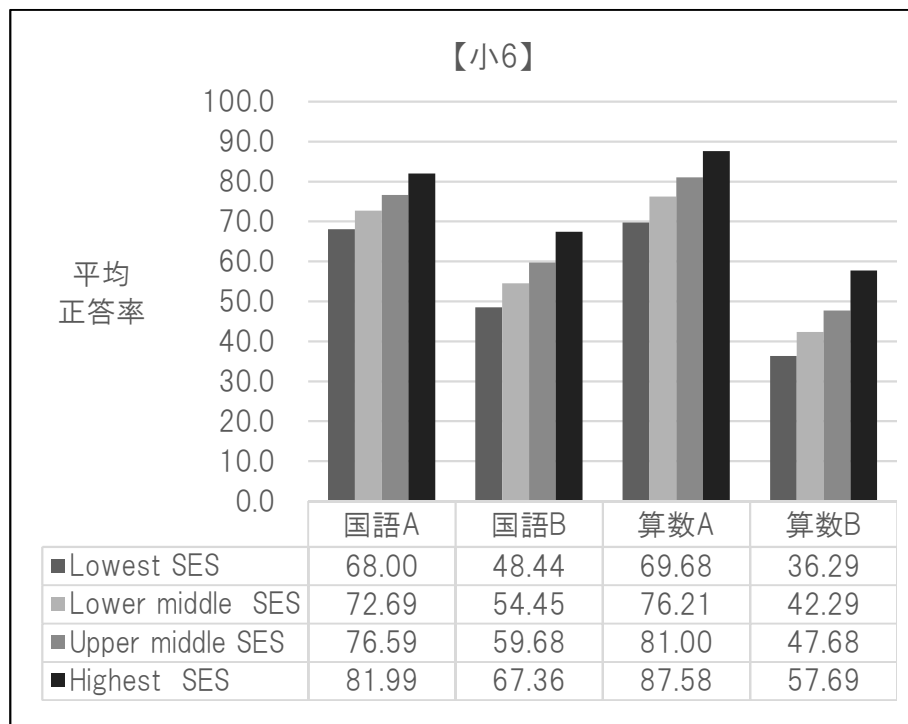
家庭の社会経済的背景 SES(Socio-Economic Status)とは?

保護者に対する調査結果から、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三つの変数を合成した指標。資本の総量。当該指標を四等分し、Highest SES、Upper middle SES、Lower middle SES、Lowest SESに分割して分析。文化資本と経済資本の総量を表す指標。

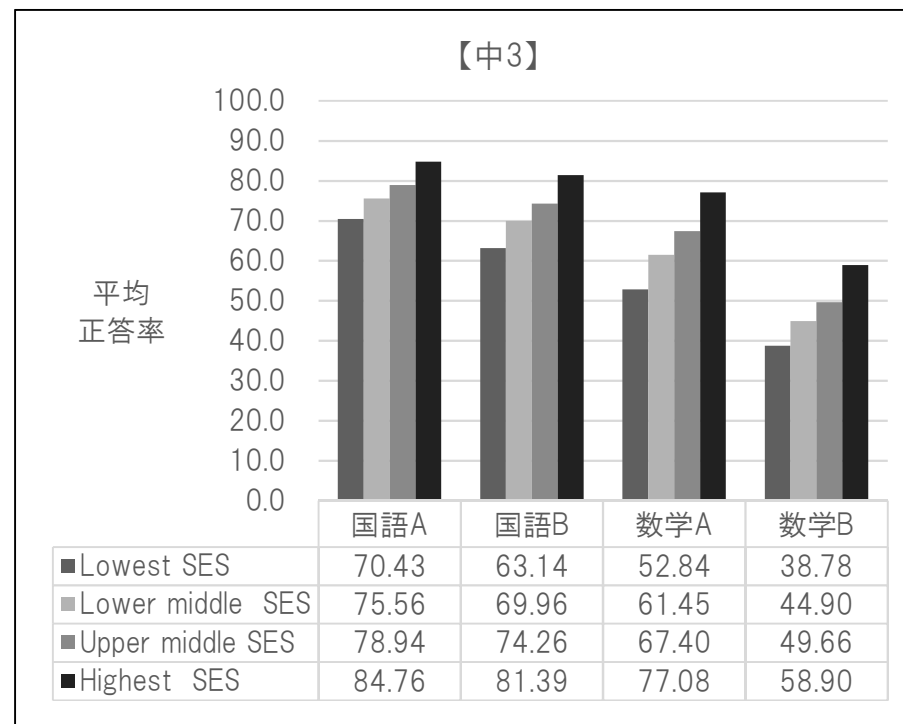
(2) 家庭の社会経済的背景(SES)と学力の関係

- 平成25年度調査と同様に、SESが高い児童生徒の方が各教科の平均正答率が高い傾向にある。
- SESが低い層で、より各教科の平均正答率のばらつきが大きい。
(SESが低い層においても、高い学力層の児童生徒が存在する。)

【注】「学力」は、各教科の平均正答率を指す。



図表 SES別の各教科の平均正答率(小6)



図表 SES別の各教科の平均正答率(中3)

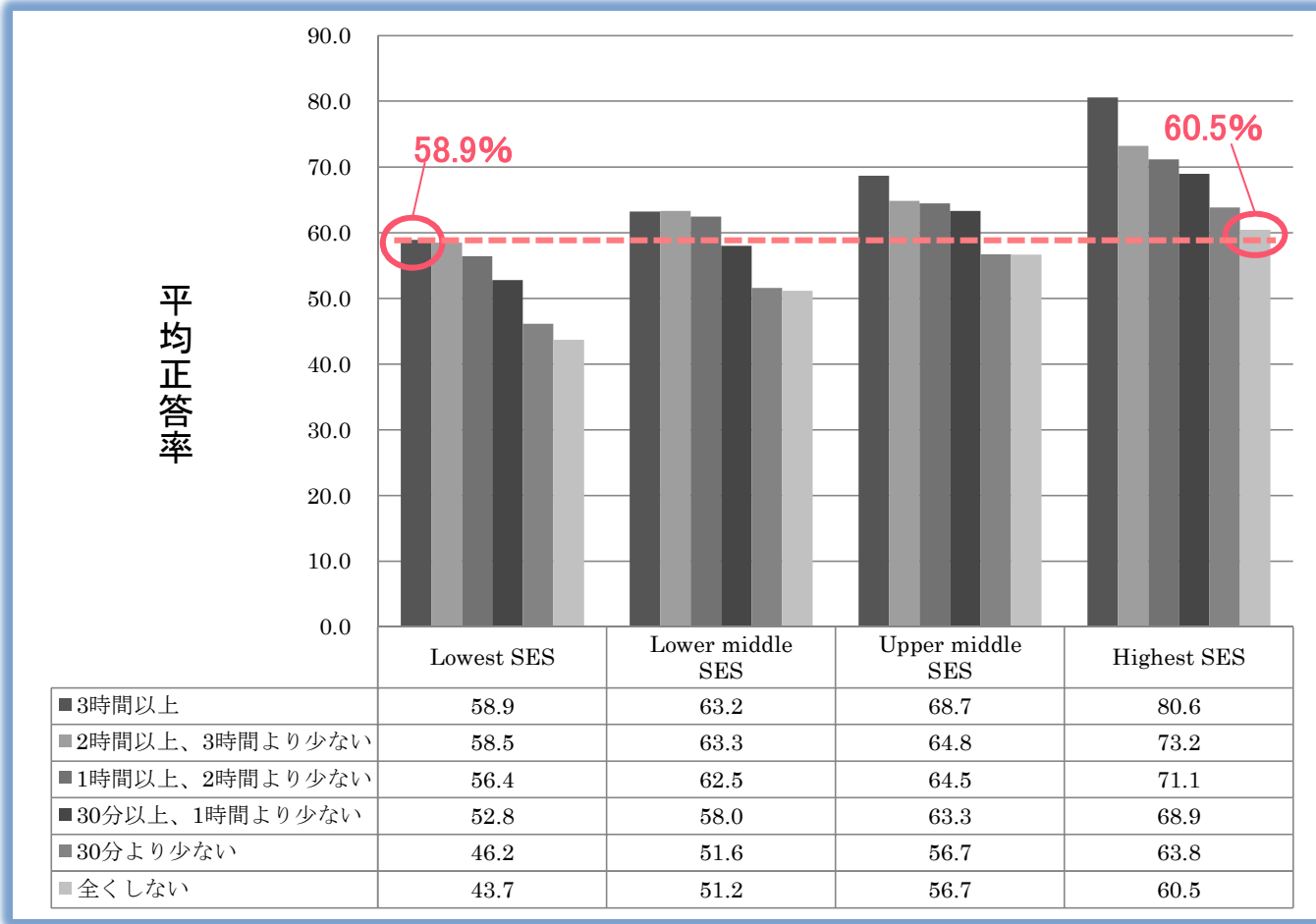
平成29年度の調査

(3) 学習時間と学力の関係

- 家庭の社会経済的背景(SES)が低いからといって、必ずしも全ての子供の学力が低いわけではない。
- 子供の学習時間は、全ての家庭の社会経済的背景(SES)で学力との関係が見られ、学習時間は不利な環境を克服する手段の一つと考えられる。(しかし、学習時間のみで見ると、平均として離れたSESグループの平均正答率を越えるのは難しい面も見られる。)

平成25年度の調査

図 平日の勉強時間と教科の平均正答率の関係の例
〈小学校・国語A〉



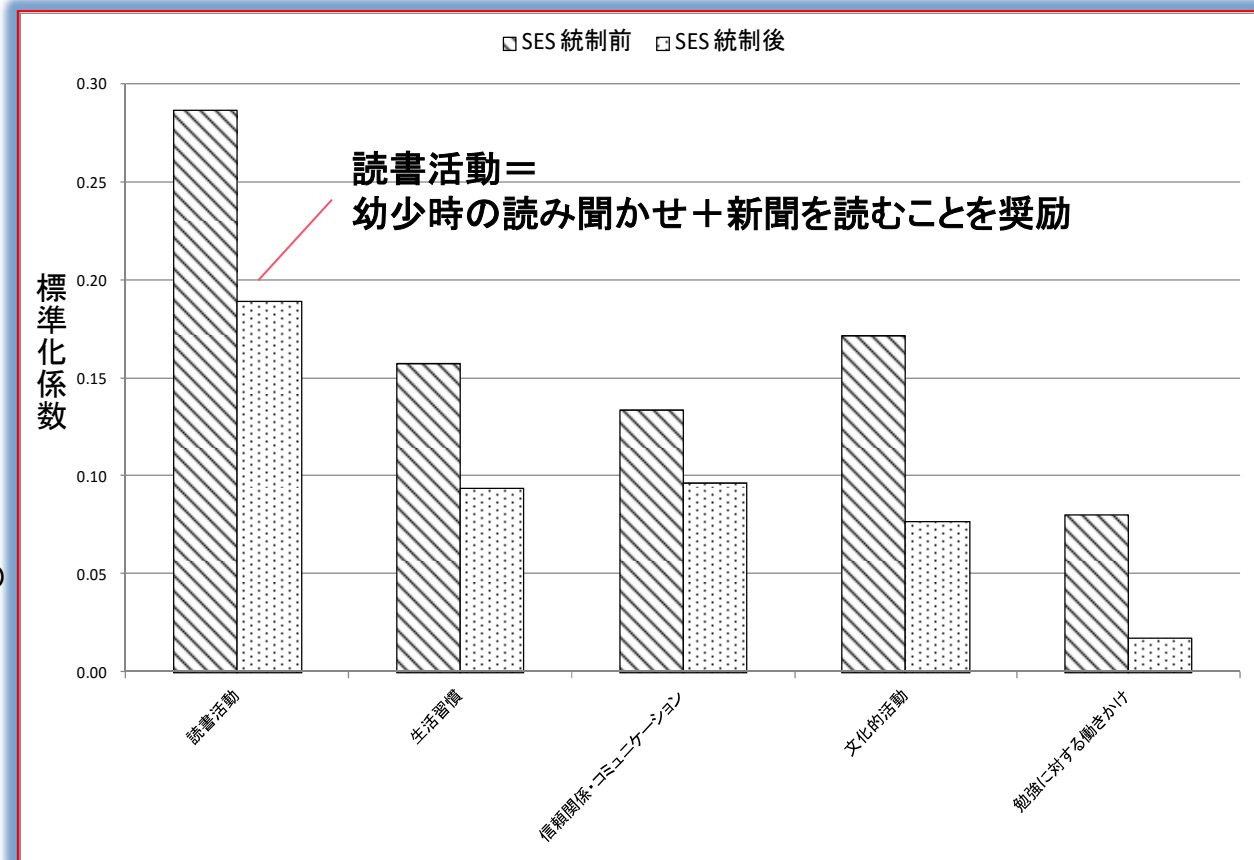
(4) 保護者の意識や関与と学力の関係

- 家庭における読書活動、生活習慣に関する働きかけ、親子間のコミュニケーション、親子で行う文化的活動は、いずれも学力にプラスの影響力。とくに家庭における読書活動が子どもの学力に最も強い影響力を及ぼす。その影響力は中学校に比べ小学校で大きい。
- 上記の保護者の行動・関わり方はいずれもSESを統制すると学力への影響力が小さくなる。ただし読書活動の影響力はなお残る(SSESに関わらず読書活動は効果的)。

平成25年度の調査

図 保護者の関与と学力の関連の例 〈小学校・国語A〉

縦軸数値は、重回帰分析による β 。数値が大きいほど学力と関連。SES統制後に数値が小さくなる項目は、SES統制前の数値が見かけ上の関連を示していたことを表す。



(5) 「非認知スキル」と子供の学力①

- 家庭の社会経済的背景(SES), 「非認知スキル」(ものごとを最後までやり遂げる姿勢, 異なる考えをもつ他者とコミュニケーションする能力等), 子供の学力がそれぞれどのように関連するのかを検討。
- 「非認知スキル」は, 子供の学力にゆるやかな相関があり, 小6の方が中3よりも学力との相関がやや強い。
- 一方, 「非認知スキル」とSESの間には, あまり相関が見られない。
- こうしたことから, SESの高低にかかわらず(SESが相対的に低い場合でも), 「非認知スキル」を高めることができれば, 学力を一定程度押し上げる可能性がある。

	小6			中3		
	総正答率 (国語算数AB)	「非認知スキル」	SES	総正答率 (国語数学AB)	「非認知スキル」	SES
総正答率 (国語算数AB)	1			1		
「非認知スキル」	0.27	1		0.20	1	
SES	0.38	0.15	1	0.39	0.10	1

図表 SES・「非認知スキル」・学力間の相関係数

※今回の分析では「非認知スキル」と子供の学力との間にゆるやかな相関があることが確認できたにすぎないため, この可能性がどの程度確かなのかはさらなる検討を必要とすることに留意。

(5) 「非認知スキル」と子供の学力②

- 保護者の適切な働きかけは、SESの高低にかかわらず、子供の「非認知スキル」を高める傾向があり、小学生でより強い影響がある。

<「非認知スキル」の向上を規定する主な保護者の働きかけ>

- 子供のよいところをほめるなどして自信を持たせるようにしている。(小6・中3)
- 子供に努力することの大切さを伝えている。(小6・中3)
- 子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。(小6・中3)
- 毎日子供に朝食を食べさせている。(中3)
- 地域社会などでのボランティア活動等に参加するよう子供に促している。(中3)

(参考) 「非認知スキル」尺度得点の算出方法

「非認知スキル」とは、一般的には、自制心や意欲、忍耐力などを指す概念であるが、本研究では、「児童生徒質問紙」の設問から、以下の8項目を合成して算出。

- ものごとをさいごまでやり遂げてうれしかったことがある。
- 難しい問題でも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- 自分には、よいところがあると思う。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- 友達と話し合うとき、友達のを考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。
- 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見の良さを生かしたり、折り合いを付けたりして話し合い、意見をまとめている。
- 学級もみんなと協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。

(6) 不利な環境を克服している児童生徒の特徴①

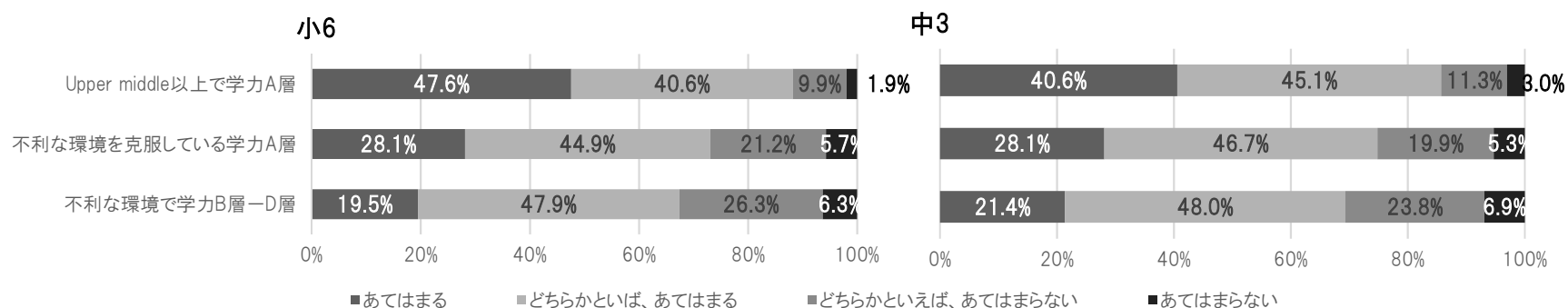
● 不利な環境を克服している児童生徒

家庭の社会経済的背景(SES)が低いにも関わらず、高い学力水準(総正答率が上位25%(学力A層))に位置する子供*。

<不利な環境を克服している児童生徒の保護者の特徴>

- 同じSES(Lowest)で学力B層-D層である場合に比較して、
 - ・ 規則的な生活習慣を整える。
 - ・ 文字に親しむように促す姿勢が見られる。
 - ・ 知的な好奇心を高めるような働きかけを行っている。
 - ・ 行事やPTA活動に参加するなど、学校教育に対する親和的な姿勢が見られる。

◆計画的に勉強するよう子供に促しているか



* SESの違いに起因する差と学力水準の違いに起因する差を踏まえた分析を行うため、以下の3者を比較。

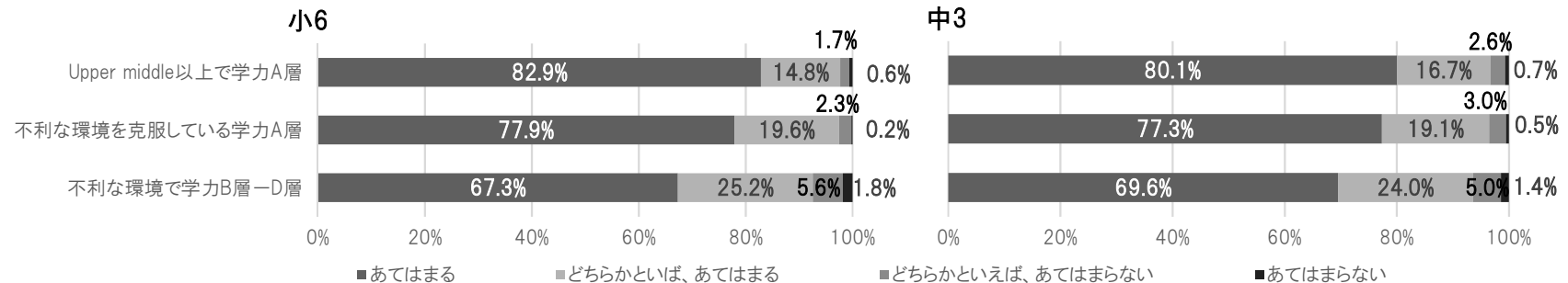
- ・ 不利な環境を克服している児童生徒(SESがLowestで学力A層の子供)
- ・ 学力水準が同じでSESが違う層(SESがUpper middle以上で学力A層の子供)
- ・ SESが同じで学力水準が違う層(SESがLowestで学力B層-D層の子供)

(6) 不利な環境を克服している児童生徒の特徴②

<不利な環境を克服している児童生徒の特徴>

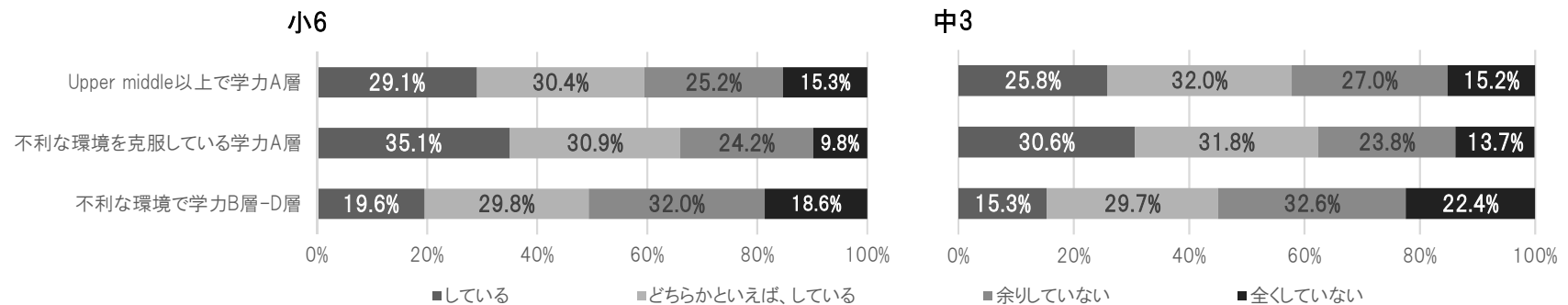
- 「非認知スキル」が高い傾向がある。

◆ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがあるか



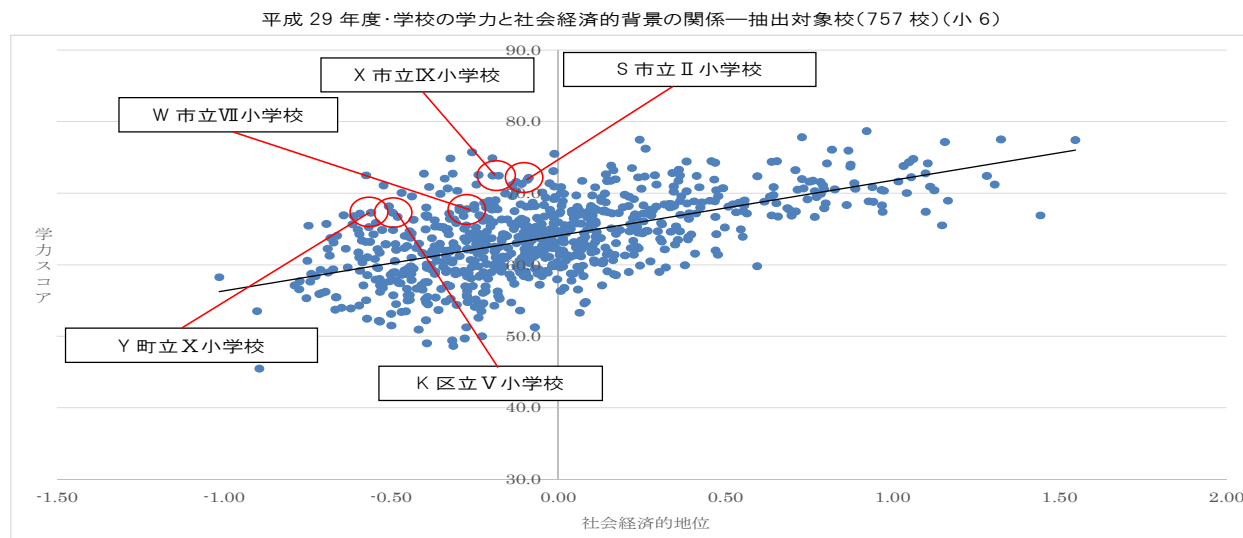
- 授業の復習を重視する傾向が強く、学校で習う内容の着実な定着を図る傾向がある。

◆学校の授業の復習をしているか



(7) 事例分析—過去5年間にわたり、継続的に成果を上げている学校—

- 在籍児童生徒の社会経済的背景 (SES) から予測される学力水準を継続的に上回る学校の事例分析。



図表 学校の学力とSESの関係(小6)

<特徴的に見られた点>

児童生徒の多様性を重視した教育

- 特別支援教育や外国人児童教育も配慮した多様性のある指導
(例: 支援員や加配教員等が学級担任を支え、一人一人の子に適した丁寧な指導。)
- 個に応じたきめ細かい指導の実質化

授業改革

- 言語活動や学習規律などを重視した授業改善の推進
(例: 子供の名前を出しながら授業研究を行う。考えを伝え合うための支援や場の工夫。)

教師のチームワーク, 研修

- 若手とベテランが学び合う同僚性と学校の組織的な取組
(例: 面倒見の良いベテラン教師と学年を組む。
初任者や若手教師の研修機会を生かして全校教師が学び合う。)

小中連携教育

- 小中一貫教育による一貫した学習の構え
(例: 小中で家庭学習の方法, 学習ルールや授業スタイルを統一。
話し合いや書く力, 読書習慣・言語指導の重点を共有。)

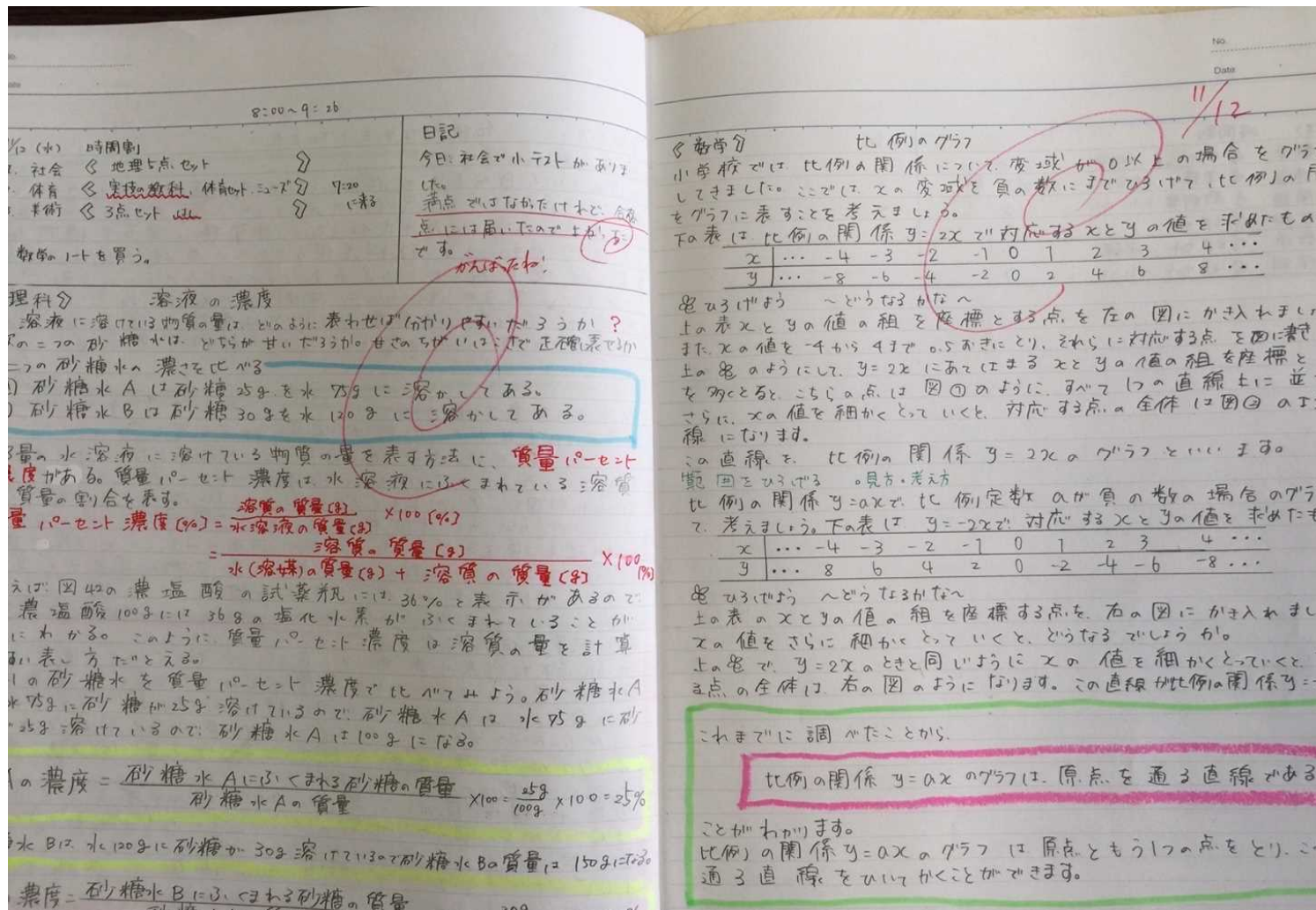
家庭学習指導

- 家庭学習習慣の定着と家庭への啓発, 一人も見逃さない個別指導
(例: 放課後や昼休みなどに個別に呼んで手厚きめ細やかに指導。)

地域や保護者との連携

- 地域や保護者との良好な関係を基盤とした積極的な地域との連携
(例: 地域の一員として、防災活動に取り組む。自治体でキャリア教育を推進。
地域人材リストの作成。)

(7) 例：高い成果をあげている学校における家庭学習指導の実践例 自学ノート



- ①学習量の確保
- ②主体性・計画性(Active Learner への道)
- ③学習方法の修正
- ④コミュニケーション機会
- ⑤生活上の課題の発見
- ⑥複数教員の眼

文部科学省の取組（関連施策）

● 家庭の教育費負担軽減

- 幼児教育の無償化に向けた取組の段階的推進（幼稚園就園奨励費補助）
- 義務教育段階の要保護児童生徒に対する就学援助（要保護児童生徒援助費補助金）
- 高校生等に対する修学支援（高等学校等就学支援金・高校生等奨学給付金 等）

● 学校をプラットフォームとした子供の貧困対策

- 貧困による教育格差の解消のための教員定数の加配措置
- スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置

● 学力向上に効果的な取組の教育委員会や学校への普及

- 放課後等を利用した補充的な学習サポート
- 学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究
- 小中一貫教育に関する取組
- 保護者や地域住民等との連携に関する取組
・コミュニティ・スクール・地域学校協働活動の推進

● 家庭教育支援

- 家庭教育支援チーム等による相談対応や情報提供等
- 教育と福祉の連携による家庭教育支援事業（訪問型家庭教育支援等）

● 学校・家庭・地域の連携・協働

- 地域全体で、多様化する家庭環境を支援
- コミュニティ・スクール・地域学校協働活動の推進等、地域の教育力の向上



新学習指導要領のリーフレット
に調査結果を引用